

日 本 ボ ス ト ン 会 会 報

発行所 日本ボストン会事務局

A G R E E T I N G F R O M B O S T O N

PETER M. GRILLI

Dear Mr. Sasaki,

I am writing to thank you and Mr. Iguchi and all your colleagues at the Boston Association of Japan for the gift of a beautiful lacquer tray, with a design of the Mayflower and an inscription celebrating the Centennial of the Japan Society of Boston. We will treasure this thoughtful gift among the historic documents and other special possessions of the Society.

The Japan Society of Boston deeply appreciates the friendly ties linking the members of the Boston Association of Japan and our own membership in the Boston area. The fact that the drawing of the Mayflower on this lovely gold-leaf tray comes from your own hand makes it an especially meaningful gift. I will present your gift at the Society's next Board meeting (on March 22), and I know my colleagues here will share my feelings of gratitude.

Let me also congratulate you on your recent appointment as President of the Boston Association of Japan. I hope we will be able to meet again soon - in Tokyo or in Boston - and I look forward to future collaborations between our two organizations.

Meanwhile, the events of our 100th Anniversary celebration go on, and will be reported to BAJ members in your forthcoming newsletters. As we move into our second century, I sincerely hope that many BAJ members will find occasions to re-visit Boston and I look forward to welcoming them here.

Yours sincerely,

(signed)

Peter M. Grilli

President

The Japan Society of Boston, Inc.

11 March, 2005

総会・懇親会のお知らせ(同封チラシ参照)

日時: 平成17年11月11日(金)午後6時開場、午後6時半開会。
場所: NEC三田ハウス芝クラブ(JR田町駅、都営地下鉄三田駅下車)
港区芝5-21-7、☎03-5443-1400
出席者: 当日払い お一人 6000円/同伴者5000円
事前送金 お一人 5000円/同伴者5000円

送金方法:

申し込み先: 日本ボストン会事務局(同封ハガキ、又はE-mailにて10月31日までに
お知らせ下さい。

日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~boston/

浜離宮恩賜庭園お花見会

小沼みさ子

開催日 2005年4月16日(日)曇
集合 午後4時、「浜離宮」内 芳梅亭

この度、1995年にボストンに単身赴任した夫と共に、日本ボストン会に入会させて頂きました。

当日は「駒込」から都営地下鉄「大江戸線」に乗車し、「築地市場」にて下車し、タクシーで浜離宮恩賜庭園に参りました。

今から300年以上前に徳川將軍の鷹狩場として開かれた庭園は、海水を引き入れた池と、ふたつの鴨場をもつ、由緒ある特別史跡です。

春の風情は筆舌に尽くしがたいほどの美しさでした。数こそ盛りが過ぎたとはいえ、遅咲きの桜が最後の瞬間の勢いを見せておりました。薄桃色のソメイヨシノ、オオヤマザクラ、サトザクラが、ハルモミジや松の木々の間に、又、潮入の池のほわりには、今にも水を飲むかのように咲いていたのです。

これからが私達の出番ですよ！とばかりに大きな蕾をつけたボタン園を通ると、一面黄色の菜の花畑に着きました。思わず「おぼろ月夜」の歌を口ずさんでしまいました。

四季折々の庭園を借景にして囲み住む高層ビルの住人方を羨望しつつ、暫しのお花見を終えました。その頃には天気予報が当たりそうな空模様となり、次の夕食会場の弥生会館まで、全員の足取りが加速しました。

当初に予定していた写生会は雨情報で中止となり、美大を卒業されたばかりの西川さんのご指導を仰ぐのは次回の楽しみになりました。

会長の佐々木さんの乾杯で始まった立食パーティでは、三好さんが用意された桜あんぱんに関するクイズがあり、その歴史や効用など目からうろこの、むしろ授業のような時間でした。ボストンの今年の10大ニュースのお披露目には、来日中に参加されたMITのウィリアム・ヘケット先生の解説が加えられ、全員が聞き入っておりました。

食後は木村屋特製のあんぱんが振る舞われ、桜を「食」の形で愛でる時間も用意されました。

ボストンは幸せは町だなあと感じております。ボストンを囲んでこのようなひとつの会が生まれ、ずっと思われ続けているのですから。



紅葉狩りの会

油彩・水彩を描く会

2005年紅葉狩りの会

日時: 2005年11月27日(日) 16時六義園大門集合

場所: 「六義園」(☎ 03-3941-2222)

文京区本駒込6-16-3

JR・地下鉄南北線「駒込」下車、徒歩7分

地下鉄三田線「千石」下車、徒歩10分

入園料 一般300円 65歳以上150円

会食 しゃぶしゃぶ温野菜駒込店 ☎ 03-5940-6129

豊島区駒込1-27-7鈴木ビル1F

JR「駒込」下車、徒歩4分

費用: 食事3千円+アルコール代

日時: 2005年11月27日(日) 13時より16時

集合: 六義園大門管理事務所前、13時

六義園は紅葉の名所です。(別項参照) 秋の紅葉をモチーフにして、鉛筆・水彩・パステルなど手軽な画材でスケッチを楽しみましょう。その後、紅葉狩りの会に合流し、秋の夜長を存分に楽しむことができます。奮ってご参加ください。参加希望者は担当幹事までご連絡下さい

西川文夫

藤盛富美子

記

六義園は1965年に、5代将軍徳川綱吉の側用人柳沢吉保が綱吉から賜った地に下屋敷を造り、そこに造成した庭園です。御殿を六義館、庭園を六義園と称してた。『詩経』の六義(りくぎ)から園名が名付けられています。江戸初期に完成した桂離宮野庭園の様式を採用し、回遊式築山泉水庭園で、元禄時代の明るいおらかな気風を反映した江戸大名庭園の代表的なものです。

秋になると、約400本のモミジが庭園を鮮やかに彩ります。特に園の北西、水香江辺りの紅葉が見事です。ライト・アップは11月23日から始まり、夕暮れ(17時半ころ)から点灯予定です。

当日は13時より油彩・水彩を描く会が開かれます。紅葉狩りの会はそれに引き続いて開かれます。

六義園の門は駒込駅に近い染井門と(正門の)大門があります。集合場所は管理事務所のある大門です。奮ってご参加下さい。

幹事: 藤盛紀明

藤盛富美子

第21回ゴルフ懇親会

4月21日、泉カントリークラブにて開催されたコンペの結果は次の通りでした。

優勝 磯崎暉子 71.5 HDCP 40 ネット 77

2位 近藤宣之 " 97 " 19 " 78

3位 富間秀雄 " 109 " 29 " 80

次回懇親ゴルフ会

日時: 平成17年11月11日(金)

場所: 藤ヶ谷カントリークラブ

千葉県柏市泉2348

☎ 04-7191-4161

参加者: 4組16名募集

IN スタート: 午前8時30分から8時48分

集合: 午前8時

クラブバス: (往路)

常磐線柏駅発 午前8時10分

クラブ着 " 8時30分

4組目スタートの方は間に合いますが他の方は柏駅からタクシーでお越し下さい。(料金約3000円)

(帰路)

クラブ発 午後4時発

柏駅着: 午後4時20分

(三田で、午後6時半開会の総会には十分に間に合います。)

プレー費: 女性: 16,800円

男性: 18,900円(但し10人以上の場合)
24,100円(9人以下の場合)

女性を含めて、10人以上になるようにお願いします。総会に参加出来ない方も是非ご参加下さい。

パーティ: 総会参加のため、今回は行いません。

参加費: 2,500円(賞品代/キャディチップ etc.)

連絡先: 近藤宣之

日本ボストン会会則(案)

(1992年10月30日提案・継続審議)

(2005年9月16日改定案提案)

第1章 総則

第1条(名称)

本会は、日本ボストン会と称する。

2. 英文名称を The Boston Association of Japan とする。

第2条(目的)

本会は、わが国と歴史的にも関係の深いニューイングランド地方との交流を促進し、日米友好の増進に寄与することを目的とする。

第3条(事務所)

本会は、その主たる事務所を横浜市青葉区若草台8番28号に置く。

第4条(活動)

本会は、第2条の目的を達成するため、次の各項の活動を行う。

- (1) ニューイングランド地方との人物交流および文化交流を促進する。
- (2) Japanese Association of Greater Bostonの地域社会の活動を支援する。
- (3) Japanese Association of Greater Bostonと共同して会員間の交流を促進する。
- (4) 会の内外を問わず、有識者、団体および法人との交流を促進する。
- (5) 会員の友好親睦のために同好会を行う。
- (6) 上記各項の活動のほか、会の目的達成に必要な活動を受託または委託する。

第5条(運営の原則)

- (1) 本会の活動は原則としてボランティア活動とする。
- (2) 政治やイデオロギーに関する活動は一切行わない。
- (3) 民主的運営を旨とし、特定の一部会員に運営上の決定権を委ねる事はない。

第2章 会員

第6条(会員資格)

会員は、Japanese Association of Greater Bostonの会員であった個人、ニューイングランド地方に滞在経験のある個人、ニューイングランド地方に興味のある個人、もしくは当会の活動に賛同する個人または法人とする。

2. 個人の入会は、その配偶者および子女も同時に入会したものとみなすことができる。(以下個人とその配偶者および子女を含めて「家族」という)。ただし入会者本人が特に申し出た場合はこの取扱をしない。

第7条(入退会)

会員の入会ならびに退会は、本人の幹事会への書面による申し出に基づく。

2. 会員は、本会の活動の目的ならびに運営の原則から著しく逸脱している行為があったと幹事会が判断した場合は、その資格を喪失し退会する。

第8条(入会金)

会員は、入会にあたって入会金を納入しなければならない。

2. 入会金は5千円とする。
3. 個人の入会金は第6条第2項に定める家族を単位として5千円とする。
4. 入会金は会の基本財産とし、幹事会が管理する。その処分には総会の承認を要する。

第9条(会費等)

会費は当面徴収しない。会費を徴収する場合は幹事会が提案し、総会で承認されなければならない。

2. 本会は、会員および会員外からの任意の寄付を受理することができる。会員外からの寄付は幹事会の承認を必要とする。
3. 退会する会員にたいしては、その理由の如何を問わず、入会金その他の金銭を返還しない。

第3章 役員

第10条(役員の種類)

本会に会長をおく。

2. 本会に副会長をおく。
3. 本会に幹事をおく。
4. 本会に監査役をおく。
5. 本会に顧問をおくことができる。

日本ボストン会会則(案)(つづき)

第11条(会長)

会長は、本会を代表し、本会の業務を総理する。

2. 会長は幹事会が会員の中から推薦し、総会で選任する。
3. 会長は1名とし、その任期を2年とし1期限りとする。ただし、幹事会が任期の延長または再任を求め、総会で承認された場合は、この限りではない。

第12条(副会長)

副会長は、会長を補佐し、会長が委任した場合は、前条に定めた会長の業務を代行する。

2. 副会長は会長が幹事の中から推薦し、幹事会の同意を得て、年次総会で選任する。
3. 副会長は若干名をおき、任期を2年とする。ただし、再任を妨げない。

第13条(幹事)

幹事は、幹事会を組織し、本会の運営業務を執行する。

2. 幹事は幹事会が会員の中から推薦し、会長が選任する。
3. 幹事は若干名をおき、任期を2年とする。ただし、再任を妨げない。

第14条(監査役)

監査役は、本会の会計を監査し、その結果を会長に報告する。

2. 監査役は会長が推薦し、年次総会で選任する。
3. 監査役は若干名をおき、任期を2年とする。ただし、再任を妨げない。

第15条(顧問)

顧問は、本会の運営につき会長の諮問にこたえる。

2. 会長経験者は特に辞退しない限り顧問に就任する。
3. 顧問は幹事会で推薦し、会長が選任したものが就任することができる。
4. 顧問が幹事として会の運営に当たることは妨げない。
5. 顧問の定数および任期は、これを定めない。

第4章 会議

第16条(会議)

総会は、本条第9項各号で総会付議事項と定める事項の他、会の運営に関わる重要事項を審議し、決議する。

2. 年次総会は年1回開催するものとし、第22条に定める会計年度終了の日から3か月以内に会長が招集する。
3. 臨時総会は、複数の会員が開催を求め、幹事会が必要と認めた場合に、会長が招集する。
4. 総会の招集は、会員にたいし、少なくとも2週間前までに会議の目的および日時と場所を記載した書面を郵送し、通知する。
5. 総会は、会員をもって構成し、会長がその議長となる。
6. 総会は、複数の会員の出席をもって成立する。
7. 総会議決圏は、出席会員1名につき1票とする。ただし、書面または代理人をもって議決権を行使しようとする会員は、出席者とみなす。
8. 総会の決議は、出席会員の過半数をもって成立する。
9. 総会の付議事項は、以下のとおりとする。
 - (1)第4条に定める会の活動に関する事項
 - (2)第8条に定める入会金に関する事項
 - (3)第11条に定める会長選任に関する事項
 - (4)第12条に定める副会長の選任に関する事項
 - (5)第14条に定める監査役の選任に関する事項
 - (6)第25条に定める決算報告の承認に関する事項
 - (7)会則の変更に関する事項
 - (8)解散に関する事項
 - (9)その他の重要事項
 - (10)総会の企画・司会は担当副会長が行う。
 - (11)総会は参加費や寄付等の範囲内で運営する。特別の支出については、幹事会の事前の承認を要する。
 - (12)総会の議事録は事務局が作成し、事務局に備え付ける。

第17条(幹事会)

幹事会は、会長、副会長、幹事、顧問をもって構成する。

2. 幹事会は、会長が必要と認めたとき、または複数の幹事が開催を求めたとき、会長が招集する。
3. 幹事会の企画・司会は担当副会長が行う。
4. 幹事会の費用は独立採算とする。
5. 幹事会の付議事項は、以下のとおりとする。

日本ボストン会会則(案)(つづき)

- (1)第4条に定める会の活動に関する事項
- (2)第7条に定める会員の入退会に関する事項
- (3)第8条に定める入会金に関する事項
- (4)第11条に定める会長の選任に関する事項
- (5)第12条に定める副会長の選任に関する事項
- (6)第13条に定める幹事の選任に関する事項
- (7)第16条に定める総会の開催に関する事項
- (8)第27条に定める規定の制定に関する事項
- (9)その他の、運営に関する事項

第5章

第18条(設置)

同好会は会員の提案により幹事会で審議して設置を決定する。設置された同好会は総会にて報告する。

第19条(担当幹事)

同好会の担当幹事は幹事が提案し幹事会で決定し、総会に報告する。幹事の任期は2年とする。延長は妨げない。

第20条(運営)

同好会の運営は同好会メンバーが自主的に運営し、活動内容を会報、ホームページで会員に報告する。

第21条(会計)

同好会は独立採算とする。ただし同好会からの本会への寄付を妨げるものではない。

第6章 会計

第22条(会計年度)

本会の会計年度は、9月1日から翌年8月31日までの1年間とする。

第23条(収入)

本会の収入は、入会金、会費(総会で決議した時)、総会等の参加費、会発行刊行物頒布代金、関係団体刊行物頒布代金、寄付、およびその他の収入からなる。

第24条(支出)

会の支出は、総会費、刊行物頒布費、および、会報

発行費、ホームページ運営費、会員慶弔費等の事務局費とする。その他の支出は幹事会の事前の承認を要する。

第25条(監査)

会長は毎会計年度の終了後に決算書類を作成し、監査役に提出して、その監査を受けなければならない。

2. 監査役は、これらを監査し、その結果を年次総会において会員に報告しなければならない。

第6章 事務局

第26条(事務局)

本会の事務を処理するため、事務局をおく。

2. 事務局は、第2条に定める主たる事務所に置く。

第7章 雑則

第27条(規定の制定)

本会則の施行に必要な規定、付則は、幹事会の議を経て会長が定める。本会則は2006年11月〇日から施行する。(注:総会承認を待って記入する)

付則

1. 送金先:

2. 事務局住所: 日本ボストン会事務局

3. 本会則は2005年度総会から2006年度総会までの間は提案した(案)を準用する。

会則改定について

本会の会則は、会発足以来、案のままでした。幹事会において、正式の会則とすべしとのご提案があり、幹事会で初期会則案を見直し、今回、会則案として提案いたします。内容は現在の実態に則したものです。2005年度総会で提案し、2006年度の総会で決定いたしたいと思っております。この間は提案した(案)を準用いたします。

副会長 藤盛紀明

山の会ハイキング

山崎 恒

5月14日(土)、山の会主催の大山ハイキングと豆腐料理を食べる会の日である。

天気予報は曇り、山の上は雨ではないかという危惧が全く無かったわけではないが、とにかく決行ということで、午前8時過ぎに小田急秦野駅に集合することになった。

事前に幹事の當間さんから、丹沢・大山フリーパスというのを購入すると、小田急線の乗車賃だけでなく、大山でのバス料金も含まれるからお得ですよという案内を頂いた。それを購入して、秦野駅へ。

改札口を出ると、當間さんが待ち構えておられ、とにかく大変な人だから、バスへ急いで下さいと言われた。なるほど、バス停には長蛇の列が出来ている。こんな所に並んで、果たして一台目のバスに乗れるだろうかと思うような所にとりあえず並ぶことになった。列はどんどん伸びていった。

このような天気の日でもこのような人出なのだから、お天気の日にはいったいどのようなことになるのだろう。

スケジュール表どおりの時間にバスが到着した。幸いなことに、我々はこのバスに乗ることができたが、同じボストン会のメンバーでも、このバスに乗れない人が出た。

このバスで、標高大体850メートルくらいのヤビツ峠まで行った。そこで、しばらくは後続のバスを待たねばならないと思っていたら、待つまでもなく次のバスが到着。余りの人のため、臨時のバスが増発になったようだ。

そこから、大山の頂上を目指して標高差450メートルくらい登っていった。

阿夫利神社本社のある頂上にたどり着くと、誰かが「ああ、富士山が見える。」叫んだ。本当に、木々の間に富士山の頂上部分がはっきりと見えた。だが、こんな曇りの日にと幸運に感謝しているうちに、霧の中に姿を消してしまった。

それにしても、山は雨だろうとの予想にも関わらず、一滴の雨も落ちてこない。かんかん照りでもないので、かえってよい登山日和ということも言える。東の間の富士山といい、この天気といい、本当にっていたのですね。

本日のメインイベントは麓に下りて、大山豆腐の会席を頂くことである。そこで、持参の軽食で腹おさえをして、いよいよ山を下りることになった。ア

歴史を飲もう会

東京下町散歩と忘年会

明治期を代表する名園清澄庭園をスタートに、松尾芭蕉記念館、両国国技館内の相撲博物館などを巡ったあと、忘年会・懇親会を兼ね、ちゃんこ鍋を囲み夕食をします。

日時: 12月11日(日)午後1時半集合

集合場所: 清澄庭園入口、(都営地下鉄大江戸線、又は東京メトロ半蔵門線「清澄白河」下車3A出口出て数分)

夕食会場: ちゃんこ大内 ☎03-3635-5349

JR両国駅西口から徒歩5~6分

近くに回向院、時津風部屋、吉良邸屋敷跡などがあります。

会費: 一人5~6千円(午後4時半頃から)
予約の都合上、参加者は11月下旬迄にご連絡下さい。

連絡先: 篠崎史朗

まずは、見晴台まで下りて小休止。そこから下社のケーブルの駅へ行き、ケーブルを利用する人、歩いて下りる人に分かれた。私たちは徒歩下山に挑戦。

麓のケーブルの駅のところまで、女坂を歩いて行くと約1900段の階段があるという。もちろん、高さもまちまちの山の階段である。登るより下りの方がはるかにきつい事は、そこまで下りてくる間に体験済み。

ひたすら下りて、下りて、下りて、麓のケーブル駅に着いたときには正直なところホットした。

それだけに、ビールと豆腐会席の美味かった事。豆腐やおからが、あれほど美味かった事はなかった。参加出来なかった皆様方にお気の毒でした。

それにしても、女性参加者の健脚振りには脱帽。そして、この会を計画してくださった當間さん、本当にありがとうございました。(参加者7人)。

美術の会

名古屋ボストン美術館

篠崎和子

5月28日(土)晴天の下、正午過ぎに、名古屋ボストン美術館のロビーに東京から4カップルと私が集合しました。名古屋からは久米夫妻がご参加いただき、11名の集いになりました。

美術館入口では、出崎事務局長のお出迎えをいただき、レクチャー・ルームにご案内をいただきました。まずは、愛・地球博記念「ボストン美術館の巨匠たち-愛しきひとびと」という演題で、山口静一前館長からご講話を伺うことが出来ました。

このテーマは三章に分けられて整理されましたので、判りやすくお話を伺うことができました。

最初は、「理想の美」を古代より求められてきた「人体の美」を中心に、紀元前のギリシャ・エジプト等から20世紀前半までの傾向を「肉体美」、「装飾・環境に絡んだ美」、「抽象的な美」、「若さと清純さを求める美」に別けた観方を伺いました。

展示品のなかからは、私は子供の無垢な表現に美を見出したドガの「14歳の踊り子」に真の迫る躍動感のあるブロンズ像が特に印象に残りました。

次は「内なる力」を中心に、目に見える人間の美を、内面を表現した作品を「指導力」、「英知・決断力」、「逆境に打ち勝つ力」、および「精神力」という観点からの観方を伺い、展示されている作品に纏わる面白いエピソードを伺いました。

私は「郵便配達員ジョセフ・ルーラン」の働く手を強調して描かれているのが、ゴッホらしい作品だと思いました。配達員として一生働いてきたごつい手に、彼の経験が伝わってきました。

最後は「人間関係を巡る、様々の愛のかたち」について、「親子」、「恋人」、「友情、社会」に絡んだ観方を伺いました。

アメリカ人のメアリ・カサットの「母性愛」は、娘をいとおむ母親とお互いに抱き合う温かく自然な絵に心がなごみました。もう一点は、ルノワール「ブーヅヴァルのダンス」は宗教性がなく、ほのぼのとした色彩と生き生きとした躍動感で、世界中の人気の作品になっているのでしょうか。

あと、ココシュカ、シャガール、ドナッテロ、レンブラント、ピカソ、歌麿の巨匠の素晴らしい作品を2年ぶりに見せていただき、山口先生を初め、スタッフの方々に御礼を申し上げます。



名古屋ボストン美術館・オープンギャラリー前にて
出崎事務局長(左端)、山口静一前館長(右端)



中部国際空港「セントレア」



「愛・地球博」長久手会場・グローバルループ



グローバル・ハウス入場券、万博入場券

名古屋訪問記

酒井 一郎

美術の会では、名古屋ボストン美術館が開館してから、1年置きに参観を計画し、翌日は名古屋近辺を探訪することにしてあります。

今年は愛知万博「愛・地球博」が3月25日から9月25日まで開催されることになりましたので、この訪問に合わせて企画いたしました。

参加者は俣野夫妻、山崎夫妻、幸野夫妻、篠崎夫人、地元の久米夫妻と私ども夫婦11名でした。

山口館長から、名古屋ボストン美術館における今回の展覧会・展示品について、ご懇切なるお話を伺ったあとで(別項参照)、一度ホテルに戻り、一休みした後で、すっかり装いを改めたJR金山総合駅から、名鉄常滑線を利用して中部国際空港“セントレア”見学に出掛けました。

夜の懇親会は、空港内のレストランで晩餐会を催しました。空港の4階は、訪れる人を楽しませるためにショッピング、レストランを両サイドに、“レンガ通り”と“ちょうちん横丁”を配し、それぞれ特徴をだした街づくりをしていました。

ホテルへの帰りには、帰路の途中にある久米さん宅に立ち寄り、一年のうち限られた時にしか見られない、庭の草むらに飛び交う“自然のホタル”を見て楽しみ、子供の頃を思い出しました。

翌朝8時過ぎに、JR中央線(エキスポシャトル)で「万博八草駅」に向かい、そこからリニモで「万博会場駅」に出掛けました。長久手会場入口の手荷物検査が手間取り、9時半に入場、入ったところで清水建設の内藤さんが待っておられ、とりあえずマンモスの頭蓋骨、牙を展示しているパピリオンの予約券を入手するべく、足早に先を急ぎ、やっと12時40分の入場予約券を並んで手に入れました。

入場指定時間までは時間があるので、各自は任意に比較的空いている外国館パピリオンを見て、日本広場に午前11時半に集合し、メンバー全員で共に食事しました。食後、マンモス展示の列に並び、マンモスの前は止まることもなく、歩きながら窓越しに見る有り様で、瞬時に終わりました。

久米さん夫妻は入場が大変に遅れ、食後に連絡がとれて、アサヒ・パノラマ・レストランの前で落合い、記念写真をとり任意解散をいたしました。参加者は歩き疲れ、午後4時前後には会場を出ました。内藤さん、久米さん、今回も我々のためにご案内をいただき、ありがとうございました。



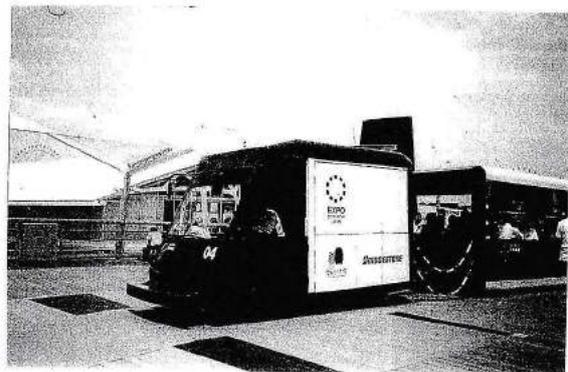
アフリカ館内の記念写真
内藤さん(前列左端)



バイオランド(緑化壁、長さ150m、高さ15m)



万博内の記念写真



グローバル・トラム(会場内移動手段)

美術の会

マネの愛したモデル

ヴィクトリーヌ・ムーラン

酒井典子

名古屋ボストン美術館を5月に訪ねた時、Edouard Manet(1832~1883)の作品に目を奪われた。

展示されていた作品「ヴィクトリーヌ・ムーラン、Victorine Meurent)」はマネの1862年頃の作品と言われている。当時、マネはパリの街並で出会った20歳のVictorineにポーズを求めた。それから10年以上に亘り、数々の場面のモデルに登場させている。

1863年にサロンに出品したあの有名な「草上の昼食」(1863)、「オランピア」(1863-Paris; Louvre)と共に「ヴィクトリーヌ・ムーラン」も拒絶された。

ヴィクトリーヌは少し青色を帯びたクリーム状のなめらかな肌、輝く栗色の眼が描かれています。ライトブルーのリボンで結ばれたバターボール色の髪がはっきり描かれています。首もとに結ぶ黒い細いリボン、黒く縁取りされた白いブラウスを着た彼女は、エネルギーに表現されています。初めてマネが彼女を見かけた時、彫刻的姿をした女性と思っただけです。

もう一つ、ボストン美術館に収蔵されたヴィクトリーヌを描いた作品「街の音楽師」(1862)は、マネが古い街並みを散歩している時、若い女がギターを抱えてキャバレーから出てきたところを、マネが彼女にポーズを取って欲しかったと頼んだら、ただ微笑みだけだったそうで、早速、ヴィクトリーヌが歌姫になりました。

マネ1866年の「笛吹き」(Paris Musée d'Orsay)は1865年、スペイン旅行の後、近衛兵の笛吹き少年兵に一度はポーズを頼んだが、途中からヴィクトリーヌが代わったと言われています。一見平凡な笛吹き少年が堂々たる姿に描かれています。浮世絵の影響を受けた作品と言われています。1866年サロンに出品し、拒否されました。でも、友人のEmile Zolaが弁護をかってくれました。その翌年にZolaの肖像画を描き、1868年のサロンに出品し、最上の作品の一つと賞賛された。

もしNew YorkのMetropolitan美術館を訪れたら、ヴィクトリーヌがポーズした「女とおうむ」を見て



Victorine Meurent, Oil on Canvas

下さい。ばら色を強調した画面を大きく占める彼女の衣服と、おうむの青紫、オレンジの果物の色の響き合いを楽しんで下さい。

パリ市内に鉄道が敷設されたのは1830年代のこと、汽車を巡っての情景は多くの画家たちの関心事でした。マネの「サンサール駅」(National Gallery of Art(Wash. D.C.))の中にも描かれています。煙を出して走り去る汽車を少女がじっと見つめている。その側の鉄柵の石の台に腰かけているのがヴィクトリーヌです。1874年のサロンに出品され、いろいろと批評が飛びかいました。

マネがサロンで無鑑査となり、レジオン・ドヌール勲章を受けたのは、死ぬ2年前のことであった。

追記：7月23日、ローガン空港に着いた時は涼しく、その翌日も心地良く、横浜での暑さがうその様に思ったが、3日目から気温がぐんぐん上がり、湿度も高く、暑いこと。こういう暑い日が何日も続き、芝もカラカラと人々も驚いていた。

7月26日に久しぶりにボストン美術館を訪れた。さすがにこの時期、来訪者が多く、名画の前には人だかりが出来るほど。名古屋ボストン美術館に貸し出された中で、シンボルとも言えるルノワールの「ブージュヴァルのダンス(Dance of Bougival)」(1870)や、「ヴィクトリーヌ・ムーラン」がいつもの場所に展示されていないのを見て、がっかりする鑑賞者たちがいた。(Sep. 10, 2005 記)

ボストン日本人学生会の調査状況 (2)

三好 彰

I. 元留学生・室賀氏からの情報

幸野幹事から、1953学年度にMIT大学院に留学された室賀弘(こう)氏*を紹介していただき、電子メールで連絡をとった。(注: 元NEC役員)

「記録集に出ている9名と、出していない1名の留学生と交流があった。交流は主としてMIT関係者同志のことが多かった。学業優先のために、積極的にこの種の親睦会に出たわけではない」とのことだった。

名簿から漏れている日本人学生がいたのは、人づての情報に拠って作っていた名簿なので、止むを得まい。

なお、記事は1953学年度で終わっているが、その理由について同氏は知らないとのことであった。

II. この記録集は4冊か?

戦後(1951年7月)に、この記録集を引き継いだ野島豊志氏は5冊あると書き残しているが、手許にあるのは4冊である。野島氏は1980年に鬼籍に入られたのが分かり、今となっては冊数を確認する術がない。しかし4冊の記事は連続性があるので5冊目はないかもしれない。つまり野島氏の誤記かもしれない。

III. 本記録の位置づけ

本記録集は日露戦争直後の明治末期から始まっている。大正期にはいると、排日運動の影響を受けたためか、アメリカ人との交流は薄くなり、それが大正末期から昭和初期まで続く。

戦後は1949年から留学できるようになり、アメリカ人との交流が復活したが、留学生が増え始めた1953学年度で記事は終わっている。なお、サンフランシスコ講話条約の締結は1951年9月8日であり、その半年後に発効して日本は独立した。

ところで明治維新直後は一種の留学ブームだったが、弊害が出て官費留学が見直された。この頃の留学生を扱った文献は少なくないが、本記録集は親睦会の記事中心だが、その意味で貴重である。

IV. 今後の進め方

①調査の深耕 不明事項の究明。

特にMITとHarvard関係
外務省ルートでの調査

②広報活動の検討。

③学会活動の検討。

④「ボストン日本人学生の記録」の保管方法の検討。

(自筆サイン) (時期)	(備考)
姉崎 正治 (大正3~8年)	東京帝国大学教授(京都出身、宗教学)
八木 秀次 (大正3年度)	超短波アンテナの発明家。
山本 五十六 (大正8年12月20日)	海軍大将・元帥。
堀内 敬三 (大正11年4月15日)	音楽評論家(東京出身)。
都留 重人 (昭和9年1月5日)	一橋大学学長(東京出身)。
小柴 昌俊 (昭和29年3月5日)	ノーベル物理学賞受賞(愛知県出身)。
井草 準一 (昭和25年5月7日)	フィールズ賞受賞、数学者(千葉県出身)。
Edwin O. Reishauer (昭和26年11月10日)	駐日アメリカ大使、講演会講師。
(記事に登場)	
Edward Sylvester Morse (明治41年~大正9年)	東大教授、日本の美術収集家、名誉会員。
菊地 大麓 (明治43年4月8日)	男爵、東大総長、京大総長。来訪者。
新渡戸 稲造 (明治44年12月8日)	第一高等学校校長、国際連盟事務次長。来訪者。
Cyrus E. Dalli (大正9年11月12日)	彫刻家、ボストン日本協会会長。
Sydney Gulick (大正9年11月12日)	京大、同志社で教員。青い目の人形を送る運動推進
山田 敬蔵 (昭和28年4月11日)	ボストン・マラソン優勝者。

幹事会記録

日時: 2005年6月9日(火) 午後6時半~8時半

場所: 新宿サミットクラブ

出席者: 16名。

*次期会長: 次期会長はハーバード関係者からなので、茂木顧問と相談する。

*新入会員: なし。

*ゴルフの会: 4月12日、泉カントリー倶楽部。参加者8名、2組。優勝は磯崎一郎氏。

*お花見の会: 4月16日(土) 浜離宮、会食は弥生会館。参加者20名。(別項参照)

*油彩・水彩を描く会: 当日、天気予報が雨だったので、中止にした。

*クルーズの会: 4月27日、横浜港に寄港したクリスタル・ハーモニーを見学した。

*歌う会: 酒巻さんが忙しくなり、現在はお休み。

*ハイキングの会・山の会: 5月14日(土)、大山にハイキング、豆腐料理を堪能。(別項参照)

*美術の会: 5月28~29日名古屋訪問。

・28日(土)は名古屋ボストン美術館訪問、山口館長のお話、夜はセントレア空港、久米氏宅での蛸狩り。

・29日(日)は名古屋万博訪問、内藤氏にご案内をいただき、会場内を参観。(別項参照)

*音楽の会:

・ボストンポップスの来日演奏がなくなった。
・関野家の姉妹ピアノコンサート5月29日開催。

*「ボストンへようこそ」: HPを通して頒布中。

*ホームページ: 4月まで3万回のアクセス。今までの会報の表紙を纏めて会報ページを制作。

*ボストン日本人学生会の記録: 精力的に調査中。

*会報発行: 8月末原稿締切り、10月初め発行。

*会則: 発足当時から案がそのまま現在に残されているので、藤盛副会長を中心に数人で原案を作り、次回幹事会で検討することにした。

幹事会記録

日時: 2005年9月13日(火) 午後6時半~9時半

場所: 新宿サミットクラブ

出席者: 18名、(除短時間出席の相山氏)。

*新入会員 相山豊氏(1人、総会出席者)

*相山氏から友人、本田健氏(「ユダヤ大富豪の教え」著者)のボストン取材旅行(約1年間)にあたり、現地の有力知人紹介の要請を受けた。

*お花見の会: 現幹事の三好彰氏が二つの会の幹事を引き受けているので、どなたかをお願いしたいとお申し出であった。(後記: 酒井氏が生田氏をお願いするとの連絡を受けた。)

*ゴルフの会: 予定していた笠間東洋ゴルフ倶楽部(会員の山崎英昭氏が支配人)における10月20日のコンペは人数が集まらないので、懇親会に変更し、当会のゴルフ・コンペは11月11日(金)の総会の前に藤ヶ谷カントリークラブにて開催を決定。(別項参照)

*紅葉狩りの会: 05年11月11日(日)六義園、18時頃からライトアップの中で紅葉狩り、この後夕食会開催。(別項参照)

*油彩・水彩を描く会: 紅葉狩り(前述)の前に、13時頃から開催を予定する。(別項参照)

*クルーズの会: 来年の予定があれば報告する。

*歌う会: 現在お休み。酒巻さん以外の方が幹事を引受け、都内の適当な場所で開催できないか?

*ハイキングの会: 現在、計画なし。

*美術の会: 来年は三好夫人が学芸委員をされている西洋美術館を鑑賞予定。

*歴史を飲む会: 幹事が体調回復されたので、12月11日(日)下町探訪、相撲博物館、最後はちゃんこ鍋で忘年会開催を計画中。(別項参照)

*音楽の会: 来年1~2月、コンサート開催を考慮中。70~80人の参加者がないとむずかしい。

*「ボストンへようこそ」頒布: 残23冊。

*「ボストン日本人学生会」の記録: 三好氏が精力的に調査・研究を継続中。(別項参照)

*ボストン側の関係団体:

MITが初めて女性を学長に選任、06年1月28日に日本で同窓会を開催する。問合せ: 佐々木会長。今後、窓口をジャパン・ソサエティーは関氏、ボストン日本人会は土居氏にお願いする。連絡があれば会長に連絡、副会長を交えて相談する。

*ホーム・ページ: 月1000回、もうすぐ35000回。

*2005年度総会: 2005年11月11日(金)18:00開場、18:30開会予定、会場は例年通りNEC三田ハウス芝クラブを予定。ボストンから増淵先生が出席予定。

*会報第26号発行: 10月3日発行で準備中。

*会則案(別項参照): 会則案を総会へ提案、異議がなければ来年の総会で承認。

*会計幹事: 06年度から山崎規矩子氏、監査篠崎氏。

*次回幹事会・新年会: 2006年1月19日(木)夕